

付けする一手段となった。

必要最小限の支援を行うため、授業の初めにホワイトボード（図1）を利用し作業内容と目標の確認を行ったり、手順カード（図2）や数を数えるための補助具（図3）を活用したりした。生徒はスムーズに作業に取り掛かるようになり、失敗も少なくなっていた。一人で作業できる場面も多くなり、作品が完成したときは、とても嬉しそうで意欲的であった。

3年生に班長を任せ、段階的に役割を増やしていった。生徒は、任されることで責任感ややる気が増し、班全体が主体的でまとまりのある集団へと成長した。

直接的な支援については必要最小限にとどめ、生徒が自発的に尋ねるのを待つ、言葉掛けについても直接的な指示は避け、褒めて伸ばすことに努めることで、生徒も自分で考えて作業に取り組めるようになってきた。

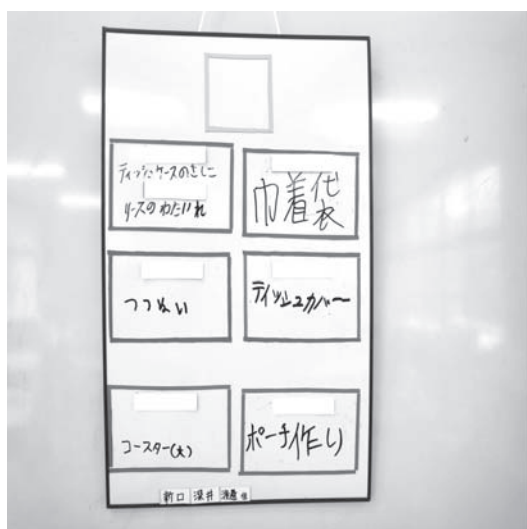


図1 ホワイトボード（作業内容・目標）

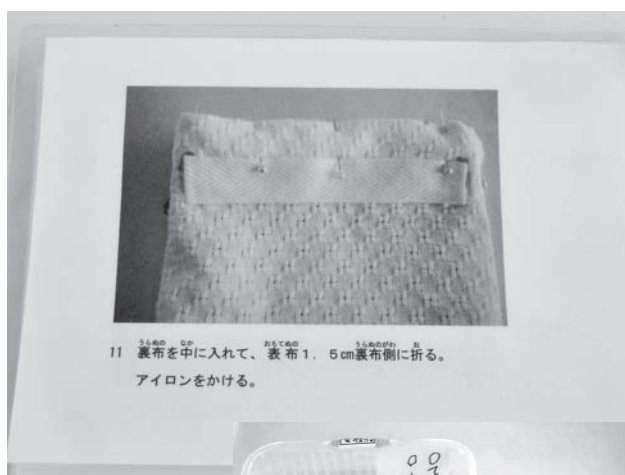


図2 手順カード

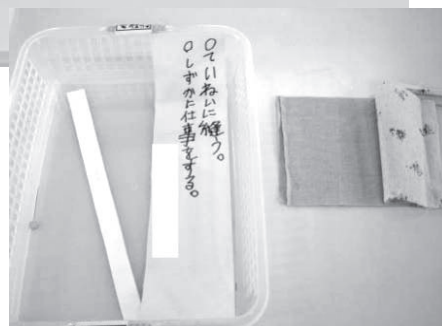


図3 補助具

ウ 課題

今後の課題として、生徒への支援を少なくできるような環境設定や教材の工夫を更に行う。言葉掛けについては、成功体験につながるような肯定的な言葉掛けを行い、生徒の主体的な行動を引き出すようにする。報告の仕方についても、「できました」という報告の仕方ではなく、生徒自身が自分の作業を評価し報告するような方法に改善する。いろいろな場面で生徒自身あるいは生徒同士が考え行動できるよう、絶えず目配り気配りをし必要最小限の支援に努めていきたい。

(6) 授業実践 産業科 職業(2年生)

「職場における様々なコミュニケーションについて学ぼう」という単元でロールプレイを通じて授業改善を行った。

ア 指導のねらい

学習集団は、投げ掛けられた質問に対し明瞭に受け答えするようになってきたが、自発的な周囲への気配りや、作業を手伝うといった積極的な働き掛けが難し

い者がほとんどである。また、指示された内容が理解できず再度説明を求めたり、教師に製品の仕上りのチェックを求めるなど、生徒自身が言い出しにくい場面に直面すると、手が止まり言葉を掛けられるのを待つといった、受け身的な態度になることが多い。

これまでの現場実習、作業学習等において、生徒自身が実際に直面する相談や報告などで「困ってしまう場面」を教材として取り扱った。実際の生活では、人との付き合いの中では思い通りにいかないことや共通理解を図ることは必要不可欠であり、そのためのコミュニケーションはとても大切であることを伝えた。日常生活に役立つ事例を端的にまとめることで、学習への理解を深められ、実践することで自分自身が楽になり自らの長所を十分発揮できたり、自信を持って挑戦できるようになったりすることを目指した。また、ロールプレイを通して定着を図る時には、伝え方や表現法は一人一人違ってもよいこととした。

イ 改善点

学習集団をコミュニケーションの力ごとに分けた。知識の定着場面では、会話がスムーズにできるグループは生徒同士が相談しながら模範解答を考えた。会話が苦手なグループは基本的な受け答えを覚えるようにした。この工夫により、生徒は自分の力に応じた学習を進めることができた。

模範的な受け答えをまとめるためにワークシートを準備した。ワークシートの設問に沿って考えることが、ロールプレイに生かしやすいと考えたが、生徒は空欄を埋めようと書くことに専念し、考えることや話し合うことに集中できなくなった。ワークシートの使用はその効果や機能を十分検討し、必要最小限度に抑えるべきであると再認識した。

授業では、生徒自身が失敗した時や困った時の報告の仕方を学んだ。知識の学習として、職場での基本的な会話文について学んだが、期待される受け答え、話し方や態度など押さえておくべき内容は、十分理解していた。実践では、ロールプレイを行い、技能や態度の定着を図った。生徒の相互評価によりチェックした。また、現場実習や作業学習に対し、学んだことが生かされているかチェックし適宜、指導を加えた。

材料補充の依頼など頻度の高い会話は、相手の状況に合わせた態度で行えるようになった。しかし、失敗を自ら報告したり、相手の目を見て話したり、指示や説明を受けた後、「ありがとうございました」と一言添える習慣が、まだまだ身に付いていない者もいる。今後も継続した指導が必要である。

授業実践の前に、生徒自身が授業や実習でどのような場面で実際に困っているのか調査した。この結果、「話すのが苦手だったりうまく話せないのに、説明しなさいと言われた時」や「できあがった製品を置く場所を聞いていたのに忘れてしまった時」などに自分から報告や相談ができないと回答した。

生徒自身が経験したことを教材として扱ったため、授業に対する生徒の意欲は大変高かった。また、授業後、すぐに実践できるという点を重視したため、単なる知識学習にとどまらなかったのが良かった。正しい言い回しの理解と実践の両方を行ったが、ロールプレイによる実践練習に、より時間を掛けて行っ

の方が良かったのではないかと思われる。同時にその実践の中から、「どうしたら良いか」といった新たな問題を解決するために、自分で考え行動し評価する学習が必要であると感じた。

ウ 課題

職業の時間における指導は、職業生活に必要な知識と態度を身に付けるための知識学習と同時に実践的な場面を想定した学習も必要であると考え、教材を生徒自身の生活の中から選定した。このことは、生徒にとって意欲や関心を引き出すことにつながった。

授業改善を進める中で書く作業を減らし、考え発表し友達の意見を聞く機会を増やす必要性を感じた。

(7) 授業実践 産業科 職業(3年生)

「卒業後に受ける支援」という単元で授業改善を行った。

ア 指導のねらい

卒業を3か月後に控え、生徒の進路がおおむね決定しつつあり、就労する者、障害福祉サービスを受ける予定の者、それぞれに今後支援を受ける必要がある。卒業後、対人関係や昨今の不景気によるリストラ、就職難等で生活上の問題を抱える可能性も否定できない。「個別の教育支援計画④」を基にして各種関係機関や福祉制度について正しく理解することで、不安や問題を解消する糸口とする。

自己理解を深め、自らのライフプランから実生活の中で予想される困難や悩み等を話し合い、相談先をどこに求めたらよいのかを端的にまとめたワークシートを仕上げることによって、「個別の教育支援計画④」の活用ガイドを自分の力で完成する。こうした活動を通して、生徒一人一人が主体的に自らの生き方を考え、安心して学校生活から職業生活への移行の一助にしたい。

イ 改善点及び成果

コマシラバスを用いて授業の見通しを立て、ライフプランを振り返るために生徒が作成した **PATH** を黒板に掲示した。生徒が発表や訂正、意見の分類をし易くするために、付箋を用い、同時に、**T2** の言葉掛けを極力最小限になるよう、配席を工夫した。2班に分かれた学習活動のときには、50型テレビを衝立とし、画面を付箋の情報を整理するスペースとした。一部生徒のワークシートをカラー化したり、記入内容の簡略化も行ったりして情報を整理した。

また、実用的な活用ガイドにするために、生徒の力に応じて記入する情報量を加減し、可能な限り支援者の実名を挙げた。

前時までの **PATH** の作成を通して、生徒たちは、当事者意識を持って取り組んでおり、目的のかつ、主体的に学習活動を進めた。特に、話し合いでの **I** グループについては、教師の出る幕は皆無であった。**KJ**法は視覚的に分かりやすく、生徒たちだけでおおむね意見をまとめられ、問題意識の共有につながった。このことが更に当事者意識を強め、興味関心がより一層強くなった。

ウ 課題

黒板のスペースをコマシラバスと PATH の掲示に割いた。参観者評価シートによれば、このことについては賛否両論あったが、見通しと振り返りという目的はほぼ果たせたが、情報の整理という意味では、改良の余地が大いにある。

さらに、50 型テレビを電子黒板代わりに使用したが、画面がやや暗く、見づらいものとなったので、さらに一工夫必要である。また、支援者リストをパソコンで検索させる場面（情報機器操作）も、授業内容としては欲張りすぎであったことは否めない。資料プリントの配布で済ませることもできた。

抽象的で難しい言葉もあったが、教師のまとめだけでなく、生徒の理解度を見るためにも生徒に発表させたり質問したりすることも考える必要がある。

5 成果と課題

PDCA サイクルを活用した授業実践に努めることにより、教師の授業に対する意識が変わった。1 時間の授業における生徒一人一人の目標を明確にし、チームティーチングの支援のあり方、生徒が自分で考えて学習できるようにするための教材・教具の工夫等が充実し、教師間の話し合いも増加した。

日々の授業の基になる年間指導計画や、個別の指導計画等の重要性が再認識されたことを受け、今後とも個別の指導計画において、細かく單元ごとに立案し評価を記入し、更なる改善につなげたい。

高等部では、生徒に生きる力を付けるべく支援している実践事例集を教師一人一人が作成した。具体的な支援のあり方として活用していきたい。

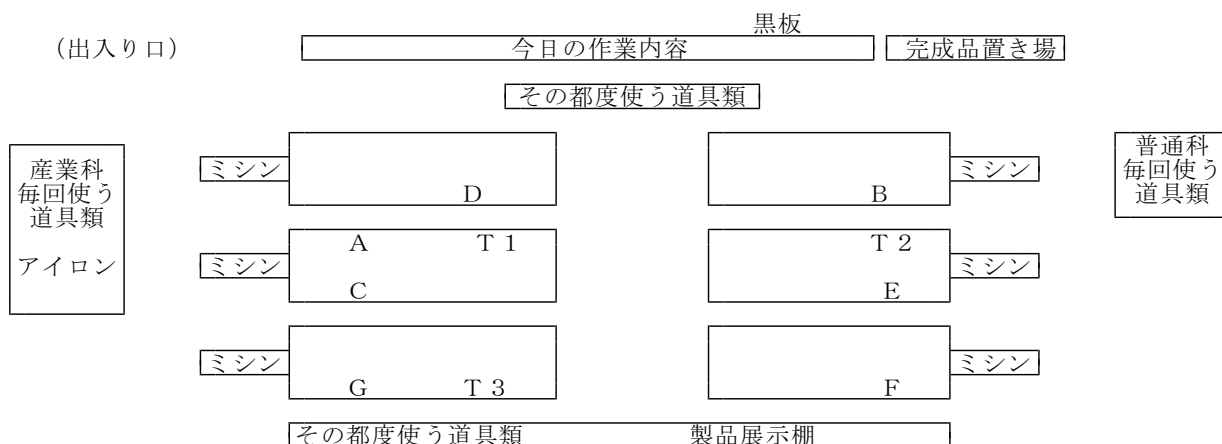
作業学習（縫製班）学習指導案

- 1 単元 小物の製作（縫製作業）
- 2 目標
 - (1) 正しい製作手順で、完成度の高い製品を製作する。
 - (2) 社会生活に必要なマナーを身に付け、自分の役割を果たしたり、協力し合ったりすることの大切さを学ぶ。
 - (3) 働くことの意味を知り、意欲的に活動する。
- 3 学習指導計画(全31時間)
 - 第1次 クリスマスに向けた製品の製作 . . . 22時間（本時その10）
 - 第2次 製品の包装・販売 . . . 6時間
 - 第3次 売上高の計算・反省 . . . 3時間
- 4 本時の指導
 - (1) 目標
 - 自分で判断し、できることは自分で行い、難しいことは支援を求める。
 - 確実な製作をする。
 - (2) 準備物
 - エプロン、糸くず入れ、整理かご、筆記用具、作業日誌、各自必要な道具
 - (3) 本時の展開

時 間	学習活動	教師の支援と手立て・評価の視点 □		
		A・B・C	D・E	F・G
始業前	1 作業の準備をする。 自分の荷物を引き出しに片付け、作業用エプロンを着ける。 時間に余裕があれば、道具を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に入る際、「失礼します」等、一言あいさつして入っているか確認する。 ・エプロンを自分で着ているか、ひも結びが難しいときは「結んでください」等、相手（教師）に伝えられているか確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で準備をしようとしたか。</p>		
10:45 (5分)	2 あいさつをして、出欠や本時の作業内容の確認をする。 ①出欠確認を行う。 ②自分の作業内容を確認する。 ③各自の目標を担当教師と一緒に確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・班長が、きちんと出欠確認をしているか見守り、補足があれば付け足す。(T1) ・班員の返事の声小さい場合や聞き取りにくい場合は、大きな声で元気よく返事ができるように促す。(T1～3) ・作業内容は、各担当教師が生徒と打合せをする。(T1～3) ・本時の到達目標と注意点を明確にし、作業に取り組めるようにする。(T1～3) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時の到達目標と注意点を把握しているか。</p>		
10:50 (5分)	3 準備物の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な道具類を準備し、各グループ内で確認する。(T1～3) ・道具類の保管場所が分からない時には、質問するように促すとともに、前時の作業を思い出しながら自分で道具がそろえられるよう働き掛ける。(T1、2) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作業に必要な道具類を準備しているか。</p>		
10:55 (60分)	4 作業する。 A：リース（綿詰め） B・C：リース（ミシン縫い） D：ティッシュカバー（刺し子） E：ティッシュカバー（ミシン縫い） F：きんちゃく袋 G：なべ敷き	<ul style="list-style-type: none"> A：取り掛かりが遅い場合は、言葉掛けをしたり、手を添えたりして主体的に製作に取り組めるよう支援する。(T1) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">継続して綿詰め作業に取り組めたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> B：一つの作業に時間が掛かり過ぎている時には、言葉を掛けて、支援を求めるよう促し、自発的に作業が進められるようにする。(T2) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教師に支援を求めながら、主体的にリースの筒縫いをしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> D：刺し子の針目をそろえる意識が持続するよう、継続的に言葉掛けをする。(T1、2) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">意識を集中させ針目のそろった刺し子をしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> E：報告や相談することを通して、完成度の高い製作ができるよう支援する。(T2) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">報告や相談を通して、完成度の高い製品を仕上げたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糸の色、ミシンの糸調子が適切に合っているか確認する。(T3) ・手順カードを見て、本時の作業内容を理解し、行動に移しているか確認する。(T3) <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一つ一つの工程の中で、自分で考え、行動に移したか。</p>

		教師に支援を求めながら、ミシンの準備や、印に合わせたミシン縫いを心掛けたか。
11:55 (10分)	5 後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分で考えながら行動できているか確認する。 片付けの動作に無駄は無いか、エプロンの畳み方は丁寧か、その都度確認して言葉を掛ける。(T1~3)
12:05 (5分)	6 作業日誌を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力に応じて日誌の記入ができているか確認する。 文章を考えたり書くことが難しい生徒には、手本を提示したり、言葉で伝えたりして支援する。(T1~3)
12:10 (5分)	7 頑張ったことや反省点を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 全員の前で自分なりに発表できる機会を設ける。 今日の目標を達成していれば賞賛し、次回への意欲や働く喜びを味わえるような和やかな雰囲気を作る。(T1~3)
前回の授業から改善した点	<ul style="list-style-type: none"> * 道具保管場所の整理等、生徒が活動しやすいように環境整備を行った。 * 生徒が主体的に活動できるよう、教師は必要最小限の支援を心掛ける。 	

5 教室配置



6 生徒の実態及び個人目標

	生徒の実態	個人目標 (* 自立活動における目標)	本時における支援の手だて
A	長時間の作業が難しいが、作業内容が理解できると集中して作業する。刺し子用の針に糸を通すなどの手先の器用さがある。	継続して綿詰めを行う。 ※友達と一緒に行動し教室の移動などを速やかにする。	取り掛かりが遅い場合は、言葉掛けをしたり、手を添えたりして主体的に製作に取り組めるように支援する。
B	針に糸を通すことや、縫い線に直角にまち針を打つことなど、縫製作業の基本が十分に身に付いていない。ミシンの準備が一人で行えるようになり、ミシンでの線縫いには自信を持っている。	印付け、ミシン縫いの二つの工程を連続して行う。 ※大きな声ではっきり話す。	困っているような時には、生徒が言葉を掛けやすい場所に教師が移動する。